

「生活改善アプローチ - 持続的農村開発のための普及手法の適用と普及員育成-」閉講式挨拶

2024年11月26日
JICA コスタリカ支所長
吉田憲

おはようございます。

カルラ・メナ様（農牧省 農業普及部長）、
ジェニフェレ・ウガルデ様（保健省 国際協力担当）、
特別ゲストの皆様、ブルーノ・モヒカ教授（パナマ農業開発省 農村開発全国ディレクター）、ダヤナ・カストレジョン様（パナマ農業開発省 農村女性プログラムアシスタント）、カレン・バスティダス様（エクアドル「エル・ポデル・デ・ウナ・ウアルミ」副代表）、
NPO 法人国際農民参加型技術ネットワーク（IFPaT）の和田彩矢子様
JICA 筑波の同僚である秋山幸代様、
そしてボリビア、コロンビア、コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、パナマ、パラグアイ、ペルー、ドミニカ共和国からお越しの「生活改善アプローチ」コースの参加者の皆様、

皆様にご挨拶できることを大変嬉しく思います。

ご存じの通り、「生活改善アプローチ」アプローチは、戦後の日本で実施された「生活改善プログラム」の概念、手法、成果を包括的に見直した結果として生まれました。このアプローチでは、日常生活の問題を特定し、利用可能な資源を活用して問題を解決するための地域住民の主体的な取り組みを重視しています。

2023年までに、このコースの参加者は総計440名を超え、彼らは現在、特に中米およびカリブ地域で生活改善活動を実践しています。注目すべきは、多くの国で「生活改善アプローチ」が農村開発を担当する組織に制度化され、農村開発政策やプロジェクトに反映されていることです。

既参加者の皆様の献身と取り組みにより、多くの国で生活改善の良い実践が生まれています。そして、皆様はそれらの具体的な成功事例を学び、ご自身の国でより良い実践を実施するための貴重な機会を得られたことと思います。

今年、このプログラムをコスタリカで実践的に取り上げて頂いた JICA 筑波に深く感謝申し上げます。この経験が非常に有意義で実り多いものであったことを願っています。皆様の母国にそれぞれ帰国後は、JICA 各国事務所や帰国研修員とのつながりを活用して、各国で実践頂ければと思います。また、これまでの帰国研修員が示してきたよう

な熱意を持って、地域社会の発展に貢献していただけることを期待しています。JICA
は常に皆様方の傍に寄り添います。

皆様のご活躍をお祈りし、心より感謝申し上げます。

以上



